

# SHIN CLUB 273

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



「よみうりランド運動公園」にて 撮影：神谷渚

今月のトーク/monthly talk

## ZEN ホールディングス大運動会

11月5日(土)、ZENホールディングスの各グループ会社が参加する「第10回ZEN社一丸大運動会」がよみうりランド運動公園で開催されました。

本大会は2011年11月に第1回大会が開催され、当時は井の頭西公園の陸上競技場を借りての実施でした。その後、参加人数や新たにグループに参入した会社も増え、第3回大会からはよみうりランド運動公園で開催。社員のみならず、ご家族や協力業者も参加しての一大イベントとなっています。

昨年、一昨年はコロナの影響で、その前年は雨で中止を余儀なくされ、今回4年ぶりの開催となりました。コロナウィルス感染予防の観点から通常10:00~16:00のところ、13:00までとし、また参加者も通常の半分以下にしての開催。屋台や出店などもなく競技以外はマスク着用のうえでの観戦です。

日頃会社で顔を合わせていても、お互いに走る姿や身体を動かす姿を見る機会は少ないものです。そういった普段見ることができない「あの人の姿」が見られるのも楽しみの1つとなっています。また若い社員にとっては、春のグループ会社の新入社員合同研修で出会った他社の同期入社した社員たちに久々に会うことができる機会でもあり、会話も弾んだことでしょう。

各社優勝を目指して競技選手を選別しているため今年は例年に比べて少ない全8競技。前回大会で優勝した株式会社辰の岩本健寿代表取締役による優勝旗返還の後、運動会実行委員による選手宣誓、

運動前の準備運動をおこない競技がスタート、白熱した競争が繰り広げられました。

大人になり社会人として働き出すと、学生時代のように競争心をあらわにする機会は減ってしまうもの。ですが本大会のときだけは童心に帰り、身体を動かして仲間と勝利をつかむという1つの目標に向かって、普段より強い団結力が生まれます。その団結力が「社員一丸」となり、ZENホールディングスの「グループ一丸」へ繋がっていきます。

実は本大会が開催されるきっかけは、先日逝去いたしました弊社前代表取締役、森村和男の一言からでした。

第1回大会が開催される前年の秋、森村和男は「せっかくこんなにも魅力的なグループ会社があるなら、各社が一丸になって、コミュニケーションがとれる催しを開催するのはどうか」と提案。各社のみならず、ホールディングスとして一丸になりグループ全体を盛り上げていこうという思いから「ZENホールディングス大運動会」が開催されることとなりました。

今年9月に逝去されたため、記念すべき第10回大会を共に迎えられなかったことは、我々社員としても無念でした。ここに追悼の意を表し、今月の本紙は特別号として生前交流の深かった方々の寄稿文を掲載いたします。

## 森村和男 前代表取締役を偲んで

「熱き心を受け継いで」

1998年、私が会社をつくった翌年、当時の辰建設の松村拓也社長が施工の営業で突然来社した。社長っぽくなく精神論を語る好印象な方だった。99年に施工の相見積もりを依頼して2現場の契約を締結した。が、完成前に「辰建設に不渡り」という噂を聞いた。松村社長に事実確認をする と正直に認めて下さり、現場の中間金の支払い 解除・手付金の返却に応じてくれた。会社を再生させたら仕事を依頼しようと思った。このこ とが現在の辰との付き合いのきっかけである。

辰の発足時、残った社員の中で一番社長っぽい 風貌だからという理由で森村さんが社長になっ たと聞いた。森村さんと会うのは地鎮祭や上棟

式、竣工時。会うたびに笑顔で「高木さん、不 良だったでしょう」と言われ、「自分もそうだっ たからよくわかるんだ」と続けた。

2012年、弊社の新規案件で施主が建設会社の計 画倒産の憂き目にあった。相見積もりの辰が提 示していた金額より安かったにもかかわらず、 森村さんが現場を引き継ぎ窮地を救ってくれた。 また、ある現場で施主が見積もり業者5社の面 談を行ったときのこと。森村さんは「小さな会 社ですが、コンクリート打ち放しはどこにも負 けません」と熱く語った。結果、その現場は受 注することはできなかったが、森村さんの言葉 は施主の心に響いていたようだった。辰は接待ゴルフや会食がなく、現場の作品自体 が営業であるという珍しい会社だ。森村さんの

実直な性格が会社の社風 を作っていたようだ。仕 事は現場がしっかりして いて安心してお願いす ることができた。設計者 からの支持もあり、受注 案件も多くなって、今では 弊社の見積り依頼が断ら れているほどだ。それだ らもある企業の社長に「 信頼できる施工会社はあ りませんか」と聞かれたら「辰」と即答した。 森村さんの熱き心が今後 の辰に引き継がれるこ とを願っている。ご冥福をお祈りしたい。



高木栄一氏

株式会社タカギブランニングオフィス  
代表取締役 高木 栄一

「森村さん」

辰建設(株)の破産手続を行っていた私に、当時 社長であった松村拓也君(私の友人)が、新会社 の社長は森村さんがいいと思っている、と言った。 私は、なるほどなと思ったが、森村さんがどれほ ど責任感のある素晴らしい社長となるか、このと き本当にはわかっていなかったと言わざるを得ない。 社員の統率、施主との折衝、親会社との調整 などを、にこやかに、厳しく、あつい情熱と人情 をもって、しなやかにこなされて、私などとても かなわないと思う人だった。日本全国をめぐる自転車旅行が人生を変えたよ

くおっしょっていたが、きつと、若い時代にそこ で感じたことが、素晴らしい森村さんの人格の一 部になったのだろうと想像している。旧会社の破産手続の中で、債権者から従業員 の給与を守るため、夜、松村君と一緒に重たい現ナマ 入りの紙袋を私の自宅に運んだときのことを、森 村さんは、いつも懐かしい昔話として話してくれ た。私が自宅の金庫に入れたまま翌日からの計画 を変更せずに旅行に行ってしまったことを御諭し ながら。その後、私は、森村さんと相談のうえ新しい建物の 建築を決断し、大森伸一さんと設計を相談しな がら辰に建ててもらった。辰の皆様の中でも特に

お二人のおかげで良い建 物が建ったと思っており、 今でも本当に感謝してい る。私のこれまでの弁護士 人生についても、その 大半が、辰建設(株)及 び(株)辰と共にあった。 つまり森村さんと共にあ ったということである。 森村さんのご逝去は、本 当に、本当に残念である。 心よりご冥福をお祈りし ている。



増岡研介氏

株式会社辰 顧問弁護士 増岡研介

「森村和男との23年間」

23年間本当にありがとう。会社はまだまだ目標 にした所には到達しませんが、紆余曲折を経なが らもどうかここまで成長出来ました。これはひとえにあなたがいたからです。思い出こせはこれから23年前、株式会社辰立ち上 げに際し、あなたが、5年先の飛躍を夢見た新設 会社の社長を引き受けたことから始まりました。 渋谷1丁目のビルの7階。ガランとした床に車 座になった社員予定者を前に、会社設立と社長 の意気込みを語ったのが昨日のこのことです。 施工管理者として脂の乗りきった頃の会社破綻。 将来を先行き不透明な会社の社長として歩む決 断には大きな葛藤があったことですが、その 決断が今こうして60人の社員が集まる会社へ と発展させてくれました。当社が最初に手掛け た新築工事は、破綻した会社で施工中の工事の うちの17件でした。それは契約残金のままを再 契約とし、完成させるというものでした。これは、 たただだ元請けの破綻で建主に迷惑を掛けない、

という思いからの覚悟の継続工事でした。半数 以上が請負赤でしたが、逆の工事が数件あった 事が救いでした。翌年(2000年)には多少の工期の遅れこそあれ、 施主との約束のとおり当初の残金契約ですべて の工事が完成しました。しかしこの間の苦労は 本当に大変でした。破綻し中断の工事を速や かに進めるため、関わっていた専門業者を1軒 1軒訪ねて工事継続のお願いをしました。「これは本当に辛かった」と後日顧みていまし たが、この社長自らが頭をさげの熱意に多くの 専門業者の方が協力を惜しまなかったことも、 その後の辰に繋がったのだとつくづく感じます。 新設間もない会社は年間20億程度の売上があり ながら営業利益は数百万という薄利(多売)の 連続でしたが、この間の多数の設計者との出会 いがその後会社の道筋を示す大きな要因になっ てくれました。こんな3年間を耐え、成長とい える数千万の利益が出せるようになったのは 2003年からでした。しかし、その後の数年も業績は思うように伸び

ず、売上は毎年凸凹 を繰り返し、遂に2008年の親会社への 統合により社内カンパニーへという業 態もありました。しかし2年半の後、創 業の想いを諦めずに 再び建築屋辰を復活させたことは喝采ものでし た。翌年のグループ全体の運動会開催の提唱も 意義あるものでした。2017年に大きな病を患いながらも頑張り、19 年に現社長に引き継いだ後もしっかり支えてく れたことに大きな感謝です。思い通りに行か ない23年間でしたが、これからの辰に期待して ください。森村和男が創り守った会社は森村和男 から薫陶を受けた岩本健寿が、日本一の建築屋 を見据えしっかりと発展させてゆきます。 安心してお休みください。社員全員が森村和男 のことは決して忘れないでしょう。



創立20周年式典にて

株式会社辰 顧問 名古屋光行

「森村社長の教え」

2005年2月、私が28歳で辰に入社した時から 約18年間、本当にお世話になりました。思い出 がありすぎて語り尽くすことはできませんが、 エピソードのひとつを記します。私が入社して半年後、新築の現場担当者に抜擢 していただきました。社内の反対がありなが らも「俺が面倒をみるから」と反対を押し切った と聞いています。私が着任したとき現場は基礎 の型枠工事中であり、着工からそれまでは森村 社長自ら現場監督をされていました。人手不足

も理由でしたが、「全ての問題は現場にあり」と いう考えのもと、今後の経営に役立つ意図だっ たようです。現場を引継いだとはいえ何もわからない私に親 身に丁寧に指導して下さり、何度も現場に足を 運んでいただきました。この工事中、一番印象に残っている教えは「足 場バラシの時は道路の反対側からじっと見てい る。シートがめくられながら外壁が現れたとき、 涙がこぼれてきたら一所懸命やってきた証拠だ」と。 残念ながら涙は出ませんでした。パイプ椅子



入社後間もない岩本社長

に座って足場バラシ を眺めていた私は、 感動で心が揺さぶら れたことを今でも鮮 明に覚えています。 なんとか完成を迎え、 森村社長からは、「岩 本は現場の最後の弟 子だ」と言われました が、その後経営につい ては帝王学を学ばせて いただき、今の私があ ります。

「満面の笑顔」

森村さんとの出会いは6~7年に一度必ず訪れる 大ピンチの年のことでした。1994年の独立以来7年間過ごした麻布台の事務 所を引き払い、アルバイト・スタッフも手放し、 自宅近くの三田に借りたワンルームマンション に移ってきて間もない2001年のことです。冬 晴れの日には富士の白峰を望む麻布台の事務所 と比べ、間口1間半の向こうの視界を隣接する ビルに遮られた三田の事務所は、はっきり言っ て気持ちのさがる場所でした。そんな事務所のチャイムを鳴らしアポなしの飛 び込みで現れたのが森村さんの満面の笑顔でし た。渋谷3丁目唯一動いていた住宅のお知ら せ看板を見かけてやってきたとのこと。「やあ、 僕の恩人で同姓同名の奴がいてこの名を名乗る 男ならいい人に違いない。そう思ったら嬉しく て嬉しくって、いてもたってもいられなくなっ てさあ〜」と、親しみを込めて。この話はどこ

「森村和男さんを偲ぶ」

まず何からお話しすべきでしょうか、思い出が多 すぎます。森村さんとの出会いは2011年、弊社がZEN-HD と資本提携してグループに仲間入りしたときに始 まります。グループ内の先輩同業社として、何く れとなく親身になって指導相談に乗って頂きまし た。その中で開口一番「古賀さん、私の社人とし てのスタートは池田建設さんの作業服を着て現 場で働いたところからです。これも何かの縁。宜 しくお願いします」と力強く握手していただき、 同じ会社の人間としても私の先輩なのだと思っ たものです。お酒も強くないのに誰よりも楽しく場を盛り上げ

「ミャンマー訪問の思い出」

2014年8月。廃屋のような木造2階建て。とこ ろどころ太陽光が天井や壁から射す時間の止 まった空間を、森村さんと僕は無言で歩き回っ ていた。ミャンマー東部、タイに接するカレン 州の山間にある小中学校は、放課後の子供たち の姿もなく廃墟の感すらあった。「これは修繕ではなくて建替だね」「僕もそう思 いますよ」と言葉を交わしながら。前年に北参道に竣工した建築の発注者のご縁で、 施工者・設計者の僕らは、民間のユネスコ協会 に加入した。ミャンマーの教育支援を行動目的 の一つとする協会員たちは、彼の地で学校建設 を計画していた。都会ではなく学校を大切にす

## 親交の深かった方々に寄稿いただきました

まで本場でどこからが作り話なのかは今ではわ からずじまいなのですが、とにかくこんな風に 温かく接近されたら誰だって悪い気はしないも のです。渋谷の現場はすでに施工会社が決まっ ているので「次の設計が決まったら必ず声をか けますからね」と心からそう言って(言わされて) しまったのでした。それから数カ月後には私も復活し、お台場の砂 浜が目の前に広がる場所に事務所を移した頃、 次に手がけることになったフルリノベーション の現場を依頼することになりました。その後、森村さん率いる株式会社辰とは10現場、 そして現在も1現場が工事中です。この間にも 私には2度ほど大ピンチが訪れているのですが、 そんなピンチのときになぜかいつも必ず森村さん がひょっこり事務所を訪ねてこられるのです。 あれこれと心配していた人を紹介しても らったこともあります。そんなわけで森村さんが私と同姓同名だった旧

友に足を向けて寝られな かったように私も森村さ んに足を向けて寝ること ができないのです。最後にお目にかかった のが昨年11月でした。ご 縁をいただいたクライア ントさんと食事を共にさ せていただいた後、愛車 のバンパで送っていただきました。もうすでに 覚悟はできておられるからか世間を俯瞰する目 がまた一段と高みにあるような気がしました。 いずれ私もそちらの世界に行くことになるわけ ですからそのときはまた何か面白いネタを携え、 チャイムを鳴らしてください。扉の向こうに森 村さんの満面の笑顔が見えるような気がします。



桑原聡氏

桑原聡建築研究所 桑原聡

て、会社や社員の事で議論を戦わし、男気のある 言論・行動で人を惹きつけ、お客様を大切に する心掛け、その場の空気を読む力等々どれを とっても私の最も尊敬する人でありました。ゴ ルフでも何度か一緒にさせていただきましたが 負けず嫌いで勝負強く、そして楽しく、私と馬 の合う仲間でした。弊社の安全大会の講演にも大変面白く興味のある お話をいただきました。いわく採用面接のとき、 わざとゴミを捨てて置き、それを如何に気 付くかを評点にするとか、喫茶店などで履歴書 を書いている人を見かけたら「辰にも提出して よ」と気さくに声をかけるなど、その本音に迫 る話しぶりに私どもの社員、協力業者もいたく 感銘しました。またグループの大運動会を見事

に立ち上げたり、辰の社長退任後、自ら現場監督につ き、現場からの視点で改善提 案をされるなどZENグループに はなくてはならない人でした。癒で入院されたのでお見舞いに行ったときのこ とです。めったに弱音を吐かない人でしたが、 社員からの寄せ書きを見て涙を流しておられま した。私にも辛い場面でした。まことに惜しい 人を亡くしました。合掌。



運動会にて森村と談笑する

古賀社長

池田建設株式会社 代表取締役 古賀智道

る村落で、古い校舎がある場所を見るために8 人と案内・通訳のミャンマー人1人で、バスと トラックの荷台を乗り継いで行き着いたのが、 100人ほどの子供たちが学ぶ山間の小中学校 だった。僕らは子供たちにプレゼントするノー トや筆記具、楽器を携えていた。「目がキラキラした子供たち一人ひとりに手渡す と、ニッコとした笑顔で「アリガトウ」と言っ てくれた。むしろ私の心が洗われるようで「コチ ラコソアリガトウ」(中略)上から目線 で単にプレゼントを 配るだけの自分が卑 しく思える。[私た ちが出来ること]を



ミャンマーの子どもたち

出来るだけする。「魚 を釣ってあげる」こ とではなく「どう やったら魚を釣れる か」を施すことが究 極ではないだろうか と思う」ミャンマー 行レポートの森村さ んの言葉です。何遍も聞かされた、新宿中央公園・シンナー・「青 年は荒野をめざす」・自転車全国一周。ぎょろつ とした目で破顔一笑の森村さんの違う一面を見 ました。学校建設は、諸般の事情からいまだ行 われていませんが、お見守りください。森村さん。



鈴木孝紀氏とトラックで

鈴木孝紀建築設計事務所 鈴木孝紀



2018年納会にて。退任祝いを受け取る森村と社員たち



ZENホールディングスの運動会では常に熱い思いで臨んだ

株式会社辰 代表取締役 岩本健寿

TOPICS/INFORMATION

ZEN 社一丸大運動会 第10回大会 2022年11月5日(土) — よみうりランド運動公園 —

毎年恒例のZENホールディングスの大運動会が開催されました。今回4年ぶりの開催でしたが、記念すべき第10回大会ということもあり、各競技例年以上の盛り上がりとなりました。

コロナウイルス感染対策として、大会時間の縮小、参加人数の制限、マラソンや徒競走などを除いた競技出場選手、各社控エントでの応援はマスク着用を願

いしました。運動会の灯を消さないという強い想いと、経済社会活動を回復させるという意味を込めての開催です。

前回、前々大会で優勝した弊社は、今年3連覇を目標に社員一同一致団結。協力業者や社員ご家族様も参加し、競技に挑みました。



各社社旗を掲げての開会式



弊社代表岩本による優勝旗返還

開会の挨拶の後、前回大会優勝の弊社代表取締役 岩本健寿による優勝旗返還をおこないました。その後運動会実行委員による選手宣誓、全体での準備運動をおこない競技がスタート。第一種目は徒競走です。

男性の部、女性の部に分かれての競争で、普段なかなか運動する機会が少ないためか、ゴール前で転んでしまう方もいらっしゃいました。走りたい想いとその強い想いに追いつかない身体ではなかなかバランスをとるのが難しいものです。

その後短距離走、お子さま参加型の宝探し競争、そして綱引きがおこなわれました。

綱引きは各社力自慢たちが集結。建設会社である弊社としては、日々現場での力仕事が多いこともあり、負けるわけにはいきません。初戦の相手はマンション・ビル管理会社である(株)ライフポート西



白熱した綱引き

洋。最後の土壇場で転んでしまいましたが、見事に勝利。続く第2戦目はZEN連合。リズムよく綱を引くことで相手チームから勝利を奪います。決勝戦は寺社・仏閣など歴史的建造物の建設が得意な池田建設(株)。弊社と同じ建設会社ということもあり、接戦が予想されました。



赤・白に分かれての玉入れ

ピストルの音とともに両チーム力強く綱を引きお互い一歩も引かず、応援席からは割れんばかりの声援が響き渡ります。最後、池田建設(株)チームが体勢を崩し、そのまま辰の勝利。

見事1位となりました。

次は玉入れ。お子さまも大人も一心不乱にかごへ玉を投げ込みます。玉入れが終了するとマラソンがおこなわれ午前の部が終了。各自控エントに戻り昼食、休憩を取りました。午後の部はレクリエーションのOxゲーム、大玉玉入れはお子さまも参戦



玉入れはお子さまも参戦

送りを経て、最終競技のリレーがおこなわれました。お子さまの部、役員の部、男女年代ごとに分かれ、なかでも役員の部は、普段走る姿を見ることが少ない各社重役の方々の姿が見られるとあって会場は大盛り上がり。大歓声のなかで全競技が終了し、最後は全体でのストレッチをおこない、閉会式となりました。

得点順位が発表され、見事総合1位を獲得したのはフィットネスクラブなどを運営するユニホー社内カンパニーのオアフクラブ。弊社は総合4位という結果になりました。



デッドヒートを繰り広げたリレー

残念ながら3連覇とはならず、逝去された弊社前社長森村和男への良いご報告とはなりませんでしたが、社員一同大きなケガなく、スポーツマンシップに則り大会を終えることができました。次回大会ではまた優勝できるよう、しっかりと準備をして挑みたいと思います。

競技に参加された方々、大変お疲れ様でした。

【総合順位】

1位 オアフクラブ	3位 ZEN連合	5位 ライフポート西洋
2位 ユニホー	4位 辰	6位 池田建設

「上北沢 S-Atelier」新築工事 地鎮祭

2022年10月7日



辰建設時代に安藤忠雄氏設計で施工した建物の上北沢駅拡張工事に伴う解体後の縮小地への建替え工事です。

構造/規模: RC造/地下1階・地上2階  
用途: 事務所  
設計: 株式会社エトルデザイン  
施工担当: 朴  
完成予定: 2023年7月

「(仮称)エストラロゴ都立大学計画」新築工事

安全祈願祭 2022年8月23日



現在施工中のエストラロゴ渋谷に続く第2弾。長屋の共同住宅が出来上がります。

構造/規模: RC造/地上3階  
用途: 共同住宅  
設計: ハル・アーキテクト  
施工担当: 能田  
完成予定: 2023年9月

編集後記

・運動会に意気込み、久しぶりに身体を動かしたら翌日筋肉痛になってしまいました。気持ちは学生時代のままで、身体は正直ですね。怪我無く無事に終えられたことが救いです。運動前のストレッチ、運動後の休息は大切です。年末に向けて、体調を整えていきたいですね。

(株)辰通信 Vol.273 発行日 2022年12月10日

編集人: 本間夏来/村上由衣 発行人: 岩本健寿

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F TEL:03-3486-1570

FAX:03-3486-1450 E-mail: daihyo@esna.co.jp URL:http://www.esna.co.jp



「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。バックナンバーもPDFで掲載しています。スマホはこちらから→

